

## 2022年度 事業計画

(自 2022年1月1日 ～ 至 2022年12月31日)

一般社団法人日本医療薬学会

2022年は、第14回定時社員総会(同年3月下旬頃に開催予定)において新役員が選任され、新会頭の下で本学会の活動が実施される。2020年1月から感染が拡大した新型コロナウイルスにより、2021年度は、現地、オンライン又は両者を併用した開催形態へと変化する形で、年会、研修会・セミナー・公開シンポジウム等が実施された。現状ではオンライン開催へのニーズが高まっている状況ではあるが、新型コロナウイルス感染症の蔓延期のみならず、終息期も踏まえた多様性且つ適正な学会の運営方法の検討を進める。

2022年においても、引き続き新型コロナウイルスへの感染対策を講じながら、第32回年会、第5回フレッシュャーズ・カンファランス、医療薬学公開シンポジウム、専門薬剤師制度に係る研修会の開催、論文審査等を進めることで学術活動の活性化を推進する。2020年に再構築した専門薬剤師制度の更なる広報を進め、質高く、安心かつ安全な薬物療法の提供を通じた薬剤師の社会貢献を図り、国民福祉のさらなる向上と充実を目指す。

### 1. 年会開催

#### 第32回日本医療薬学会年会

年会長 山本 康次郎(群馬大学医学部附属病院 教授・薬剤部長)

開催日程 2022年9月23日(金・祝) ～ 25日(日)(予定)

開催地 群馬県高崎市 Gメッセ群馬ほか

ハイブリッド開催(現地開催+Live配信+オンデマンド配信)

### 2. 医療薬学公開シンポジウム開催

第85回～第88回医療薬学公開シンポジウムを開催予定

### 3. フレッシュャーズ・カンファランス開催

#### 第5回フレッシュャーズ・カンファランス

実行委員長 伊藤 清美(武蔵野大学薬学部 教授)

開催日程 2022年6月中旬(予定)

開催地 武蔵野大学・武蔵野キャンパス(東京都西東京市)

### 4. 医療薬学誌の発行

第 48 巻 1 号～12 号を発行する。（毎月発行）

## 5. JPHCS 誌の発行

第 8 巻をオープンアクセスジャーナルとして発行する。（随時掲載）

## 6. 会議開催

### 1 第 14 回定時社員総会

（2022 年 3 月中旬から下旬頃に開催予定）

### 2 第 14 回臨時社員総会 第 32 回日本医療薬学会年会会期中に開催予定

### 3 定例理事会 年間 6 回開催予定

## 7. 各委員会活動

### (1) 総務委員会

- 1 新型コロナウイルス感染症の蔓延期における学会運営に関する検討を行う。
- 2 働き方改革・新型コロナウイルスへの感染対策等を念頭にした学会運営・会議等の電子化を推進する。
- 3 諸規程の整備・定款見直しの必要性に関して確認する。
- 4 事務局組織体制の整備・強化（人員確保も含む）と事務員の勤務評定の導入を目指す。
- 5 その他、会の円滑な運営に必要な事項を検討する。

### (2) 財務委員会

- 1 本学会の資産を適切に管理する。
- 2 予算の執行状況を定期的に確認する。
- 3 歳出入の適切性を監視する。
- 4 年会の組織委員会に参画し、年会長と理事会及び学会事務局との連携を推進する。
- 5 年会会計を適切に管理・監督する。
- 6 2021 年度決算報告書を作成する。
- 7 公益社団法人への移行を見据えた 2023 年度予算案を編成する。
- 8 学会運営における財務改革について提言する。

### (3) 企画・シンポジウム委員会

- 1 2022 年度に開催される公開シンポジウム運営への助言、支援を行う。
- 2 本学会の委員会等が企画するプログラムの年会への組み入れを年会長に提言する。
- 3 新型コロナウイルスへの感染対策を考慮した公開シンポジウムの開催のあり方（WEB

開催など) について協議する。

#### (4) フレッシュヤーズ活性化委員会

- 1 第5回フレッシュヤーズ・カンファランスを開催する。
- 2 第5回フレッシュヤーズ・カンファランスを開催することで、若手・新人の発表の場を提供するとともに、優秀な若手・新人を顕彰する。
- 3 2023年度以降のフレッシュヤーズ・カンファランスの開催計画を立案する。
- 4 若手・新人の研究アクティビティーの向上策について検討する。
- 5 新型コロナウイルスへの感染対策を考慮したフレッシュヤーズ・カンファランスの開催のあり方 (WEB 開催など) について協議する。

#### (5) 広報・出版委員会

- 1 ホームページの更新及び改訂を継続する。
  - ① 会員以外の者 (薬学研究者、医療関係者、薬学生や大学院生、その他一般) に向けた情報を発信するため、コンテンツを検討する。
  - ② 新専門薬剤師制度を周知するため、専門薬剤師制度委員会と連携し、コンセプトや魅力などを積極的に発信するコンテンツの作成を検討する。
  - ③ 各種委員会と連携し、成果や活動内容を積極的に発信するコンテンツを作成する。
  - ④ 国際交流委員会及び年会あり方検討委員会と協力して、英文ホームページの更新を検討する。
  - ⑤ 出版図書の普及促進となるコンテンツの作成を検討する。
- 2 薬学生や大学院生、非会員薬剤師等の加入勧誘を目的とした学会紹介リーフレットを作成し、配布する。冊子としての検討も行う。
- 3 一斉配信メールなど、会員への広報活動の促進策を検討する。
- 4 「病態を理解して組み立てる 薬剤師のための疾患別薬物療法」の次期改訂版の編集方針を検討する。

#### (6) 会員委員会

- 1 正会員及び学生会員数の増加策を検討する。特に薬局薬剤師、薬学生や大学院生、製薬企業所属者、行政関係者の会員増加策に関する検討を行う。
- 2 会費徴収を含めた会員管理システムの利便性をより高めるための方策を検討する。
- 3 会員管理システムの運用改善に関する検討を行う。

#### (7) 医療薬学編集委員会

- 1 投稿論文の審査・採否の決定・掲載とより迅速で適切な体制整備を検討する。
- 2 医療薬学誌第 48 巻を発行する。
- 3 投稿論文並びに掲載論文の増加策の検討と学術誌としての質の維持・向上を図る。
- 4 医療薬学誌の紙媒体としての特性を踏まえたコンテンツの再編と、学術誌としての機能に加えて、会員からの情報提供・共有を図る媒体として活用することを検討する。

#### (8) JPHCS 編集委員会

- 1 JPHCS 誌の論文投稿を随時受け付け、これを審査し、受理された論文を第 8 巻に掲載する。
- 2 JPHCS 誌の認知度向上および投稿数増加に向けた取り組みを検討、実施する。

#### (9) 専門薬剤師制度運営委員会

- 1 各専門薬剤師制度を統括し、制度設計及び運営を管理・監督する。
- 2 各専門薬剤師制度の諸規程の新規策定及び見直しを検討する。
- 3 各専門薬剤師制度の研修施設の認定審査を実施する。
- 4 各専門薬剤師制度の連携研修の運営管理を行う。
- 5 下部組織として、次の小委員会及びワーキンググループを置き、その運営を管理・監督する。
  - ① 薬物療法集中講義企画・運営小委員会
    - ・ 薬物療法集中講義を企画・運営する。
  - ② 専門薬剤師認定試験小委員会
    - ・ 専門薬剤師認定試験の試験問題を作成する。
    - ・ 専門薬剤師認定試験の実施と採点を行い、合否判定結果を上申する。
  - ③ 専門薬剤師制度支援システム検討ワーキンググループ
    - ・ 認定申請及び審査の円滑な実施に向けた申請・審査システムを構築する。
    - ・ 研修施設（連携研修を含む）を管理するシステムを構築する。
  - ④ 中小療養病床専門薬剤師制度検討ワーキンググループ
    - ・ 地域医療や慢性期医療を担う医療機関の所属者を対象とする専門薬剤師制度の構築を検討する。
- 6 新型コロナウイルスへの感染対策を考慮した集中講義等の開催のあり方（WEB 開催など）について協議する。

#### (10) 医療薬学専門薬剤師認定委員会

- 1 医療薬学専門薬剤師、医療薬学指導薬剤師の新規及び更新に係る認定審査を実施する。

- 2 医療薬学専門薬剤師研修施設の新規及び更新に係る認定審査を実施する。
- 3 医療薬学専門薬剤師認定制度に関する問題の協議を行い、方策を実施する。
- 4 下部組織となる医療薬学専門薬剤師研修小委員会の運営を管理・監督する。
  - ・ 医療薬学専門薬剤師研修ガイドライン及びカリキュラムを更新する。
  - ・ 受講単位の対象となるセミナーを受け付け審査・認定する。

(11) 薬物療法専門薬剤師認定委員会

- 1 薬物療法専門薬剤師、薬物療法指導薬剤師の新規及び更新に係る認定審査を実施する。
- 2 薬物療法専門薬剤師認定制度に関する問題の協議を行い、方策を実施する。
- 3 薬物療法専門薬剤師の育成(症例サマリのまとめ方)と全国に向けた情報発信を行う。
- 4 本学会年会において、症例サマリのまとめ方に係るシンポジウム及びワークショップを企画し開催する。
- 5 下部組織となる薬物療法専門薬剤師研修小委員会の運営を管理・監督する。
  - ・ 薬物療法専門薬剤師研修ガイドライン及びカリキュラムを更新する。
  - ・ 単位認定の対象となるセミナーの申請を受け付け審査・認定する。

(12) がん専門薬剤師認定委員会

- 1 がん専門薬剤師、がん指導薬剤師の新規及び更新に係る認定審査を実施する。
- 2 がん専門薬剤師の養成及び有資格者を対象とした研修会を立案し実施する。
  - ① がん専門薬剤師集中教育講座を日本病院薬剤師会と共催で実施する。
  - ② がん専門薬剤師アドバンスト研修会を実施する。
  - ③ がん専門薬剤師全体会議を実施する。
  - ④ がん専門薬剤師の申請に係る症例サマリのまとめ方セミナーを実施する。
- 3 がん専門薬剤師認定試験の問題を作成し試験を実施する。
- 4 がん領域の他学会とのコラボレーション企画を検討して実施する。
- 5 がん専門薬剤師の研修ガイドライン及びコアカリキュラムを更新する。
- 6 新型コロナウイルスへの感染対策を考慮した集中講義等の開催のあり方(WEB開催など)について協議する。

(13) 地域薬学ケア専門薬剤師認定委員会

- 1 過渡的認定を含む地域薬学ケア専門薬剤師の認定審査を実施する。
- 2 地域薬学ケア専門薬剤師認定制度に関する問題の協議を行い、方策を実施する。
- 3 地域薬学ケア専門薬剤師の育成(症例サマリのまとめ方)と全国に向けた情報発信を行う。

- 4 下部組織となる地域薬学ケア専門薬剤師研修小委員会の運営を管理・監督する。
  - ① 本学会年会及び他学会等の学術大会において、症例サマリのまとめ方に係るシンポジウム等を企画し開催する。
  - ② 地域薬学ケア専門薬剤師研修ガイドライン及びカリキュラムを更新する。
  - ③ 受講単位の対象となるセミナーを受け付け審査・認定する。

(14) 学会賞選考委員会

- 1 功績賞選考規程に基づき、功績賞受賞候補者を選考する。
- 2 振興賞選考規程に基づき、振興賞受賞候補者を選考する。
- 3 学術に関連する賞として、日本医療薬学会賞、学術賞、奨励賞及び Postdoctoral Award の各受賞候補者を募集し、各賞の選考規程に基づき各受賞候補者を選考する。
- 4 論文賞選考規程に基づき、医療薬学誌第 47 巻および JPHCS 誌 Vol.7 の各誌に掲載された論文より、医療薬学誌論文賞および JPHCS 誌論文賞受賞候補論文を選考する。

(15) 医療薬学教育委員会

- 1 卒前から卒後初期に対する薬剤師のキャリアパス構築に向けた事業の起ち上げを検討するため、以下について取り組む。
  - ① 各薬学部や日本薬学生連盟と協力し、初学年次（1、2 年生）に対して本学会の専門薬剤師の姿を学生に伝える活動（ウェビナーなど）の計画を検討する。
  - ② フレッシュヤーズ活性化委員会と情報共有・連携できる活動計画を検討する。
  - ③ 卒後初期の薬剤師に対して医療薬学会の各種専門薬剤師認定委員会と情報共有・連携し、資格取得までのキャリアパスがイメージできるような資材・教材作成を検討する。

(16) 研究推進委員会

- 1 臨床研究セミナーを企画・開催し、会員の研究活動を推進する。
- 2 臨床系薬学教員の研究活動を活性化するための方策を検討する。
- 3 会員による医療薬学研究（疫学研究等）を支援するための方策について検討する。

(17) 国際交流委員会

- 1 会員の国際化を推進するため、本学会年会において国際シンポジウムを企画・開催するとともに、International Session として一般演題の口頭及びポスター発表を企画する。
- 2 海外研修等助成に関する事業を運営する。
- 3 海外における薬剤師の活動に関する情報を会員へ提供するとともに、会員の国際化へ

に向けた意識向上を図る。

(18) 利益相反マネジメント委員会

- 1 利益相反の申告対象者の利益相反状態を確認する。
- 2 申告書類の保管管理を行う。

(19) 医療薬学学術委員会

- 1 学術活動の活性化に繋がる研究テーマを決定し、研究課題を公募する。
- 2 応募案件から学術小委員会として支援に資する研究課題を選考する。(3件程度)
- 3 2021年度に発足した学術小委員会を統括する。
- 4 下部組織の医療薬学学術小委員会で、以下の事項を実施する。
  - ① 研究計画に沿って研究を実施し、年度毎に研究報告書を作成する。
  - ② 研究最終年度には、年度毎の報告に加えて、研究成果最終報告書を提出する。
  - ③ 本学会年会において、研究成果に関するシンポジウムを企画・開催する。

(20) 年会あり方検討委員会

- 1 年会の運営等に関わるルール作りを検討する。
- 2 年会の運営、会計処理の実施に必要な諸規程の整備を検討する。
- 3 年会運営事務に関わる委託契約を含めた体制及び契約のあり方を検討する。
- 4 国際交流委員会及び広報・出版委員会と協力して、年会用ホームページの英語版の構築を検討する。

(21) 公益法人化等将来計画検討委員会

本学会の将来構想に関わる事項として、学術団体としての運営方針や組織体制のあり方を提言としてまとめ、事業の継続性を担保し本学会の持続的な発展に資する検討を進める。

- 1 本学会が目指す規模や他団体との関係性を議論する。
- 2 公益社団法人への移行に係る検討を進める。
- 3 職域別代議員選出のあり方を検討する。
- 4 会頭選任スキームを検討する。